



監査委員の決算審査・ 財政健全化審査意見（要約）

○ 審査に付された一般会計、特別会計及び上水道事業会計の歳入歳出決算書・歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調査及び財産に関する調査は法令に準拠して作成されており、決算計数は関係帳簿及び証拠書類と照合した結果、誤りないものと認められた。又、各基金の運用状況を示す書類の計数についても、関係諸帳簿及び証拠書類と符合しており、誤りのないものと認められた。

○ 平成26年度の日本経済を振り返ってみると、政府の「三本の矢」からなる経済政策等を背景とし、雇用、所得環境に改善がみられ、また、円安の加速により大企業を中心に業績の回復がみられた年度であった。しかし、消費税の引き上げに伴う個人消費等への影響から、特に地方においては景気の回復感弱いものがあった。

○ 歳入・歳出とも減少額が大きい科目は大部分が震災復旧事業に係っている。前年度で当該事業がほぼ終息、これらの事業費支払いが前年度多額であった当年度これらの歳出額は前年度に比べ大幅に減少、町の財政内容もほぼ震災前の姿に近づいた。正に「町が蘇り新しい鏡石町が誕生」したと言える。

○ 26年度の自主財源の構成比は39.6%、依存財源構成比は60.4%となった。自主財源構成比は前年度比3.7%増とほぼ前年度同様の結果である。但し、自主財源歳入額は前年度比16.1%、873千円減少している。要因は町税特に固定資産税の減少、分担金及び負担金、諸収入の減少等である。改善策は、課題である滞納分の収納率向上を含めた町税の増加を図る施策を強力に推進する以外にないと思料する。

○ 現在、町では「第5次総合計画」の推進に営々努力中である。震災からの復興を遂げ、町の将来像である「かわる」は達成できたものと思う。次の段階である「かがやく」の達成に向け執行側と町民が一体となり諸策を推進、注目される「鏡石町」となることを期待する。

○ 審査に付された健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認められる。

代表監査委員 根本 次男
監査委員 井土川 好高



第1回定例会本会議

財政健全化判断比率

(単位：%)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	早期健全化基準
実質赤字比率	—	—	—	15.00
連結実質赤字比率	—	—	—	20.00
実質公債費比率	17.3	15.8	13.9	25.0
将来負担比率	86.1	46.7	29.4	350.0

主要財政分析指標

(単位：%)

	平成25年度	平成26年度
財政力指数	0.520	0.520
経常収支比率	84.1	86.1
公債費比率	15.5	15.3

編集後記

町議会議員選挙が8月に行われ、現職10人、新人2人が選出されました。選挙期間中、町民の皆様の要望等を聞くことができ、町民の代表者として二ノズを町政に反映すべく全力を尽くすとともに、その責任の重大さに身の引き締まる思いでいっぱいです。

今回は新しい議員も編集委員に加わりましたので、開かれた議会を目指し、新たな手法等を取り入れてまいりたいと考えております。

新広報委員一同、より一層努力いたしますので、皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願いたします。

発行責任者 渡辺 定己
議長 渡辺 定己
広報編集委員会
委員長 小林 政次
副委員長 木原 秀男
委員 橋本 喜一
委員 古川 文雄
委員 菊地 文雄
委員 長田 守弘



No.158
平成27年12月
発行 福島県鏡石町議会
編集 議会広報編集委員会
〒97-0040 福島県若狭郡鏡石町 不持345
電話0248(62)2110
印刷 (株) 永山印刷

かがみい 議会だより

地方創生議会スタート

町議会議員一般選挙が8月30日(日)に行われ、町民の皆さんの代表として2名の新人議員を含む12名の議員が選ばれました。本格的な少子化時代を迎え、全国各地で自治体の維持が問題となっている今、本町でも新たな「まちづくり」が期待されています。こうした期待を担う町議会議員の船出は、まさに地方創生議会のスタートになりました。

議席番号	議員名	当選回数
1	小林 政次	2
2	吉田 孝司	1
3	橋本 喜一	1
4	古川 文雄	2
5	菊地 文雄	2
6	長田 守弘	2
7	畑 幸一	2
8	井土川 好高	2
9	大河原 正雄	5
10	今泉 文克	5
11	木原 秀男	5
12	渡辺 定己	4